

大腸 CT ライブを終えて

小樽掖済会病院 平野雄士

平成 25 年 7 月某日, T 社の宮谷氏が当院を久しぶりに訪れた。

要件は何かといたら、「大腸CTのライブをやりたい」と、突然訳の分からないことを話し始めた。保険収載されてから大腸CT検査を行う施設はどんどん増えているが、できる施設となかなかうまくいかず実施しなくなる施設が二極化している。そこで、長年消化管CTについて一緒に検討してきた私に、検査を生で披露することによってコツを伝えてもらいたいという。「なるほど」と一瞬思わないこともなかったが、もちろん丁重にお断りさせて頂いた。

お断りした理由は以下のような点である。

治療のライブなら最近方々で行われているのを耳にしたり、当院でも内視鏡のESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）ライブを行ったりしている。上手な先生が鮮やかに治療を行っている姿を見て、最後にはうまく治療が完了しました、素晴らしいですねと言って終わる、とても見ごたえのある教育プログラムだ。しかし、大腸CTは検査であり、治ってよかったという類のものではない、一体何が面白いだろうか。CTの検査は皆さんも御存じのとおり、非常に淡々とした作業である。大腸CTもその例外ではない。CTの性能を誇示したいなら、各社の作り上げたプレゼンテーション用のビデオのほうがよっぽど効果的だ。ライブでは要点をまとめきれないし、トラブルが起きようものなら製品としても検査法としても致命傷にもなるだろう。リスクが高すぎる！いや、リスクしか無い！

もう一つの理由は、私はもう「過去のひと」ではないかという現実だ。院内では雑用係を命じられ、検査につく余裕はない。たまに過去の経験から検査法の指導をすることはあるが、実践でバリバリ検査しているとは言い難い。ライブこそ「手馴れ」や「癖」の部分がもっとも重要な要素となる。多くの診療放射線技師はそれを日夜磨いているのである。ちょっと前までは自分が世界中で一番うまくやれると思っていたが、今は「おこがましい」感が満載なので、そんなことは出来ないとお断りした。他に適任者はたくさんいる。

そのようなことを言って一度はお断りした件であるにもかかわらず、結局は平成 25 年 9 月 20 日、当院と島根の会館を繋いで大腸CTライブを行うことになった。どうしてそうなったかという、要は「私のやらないための言い訳」など問題ではなく、この手技をより多くの人に理解してもらい、上手く検査をするためのキッカケになればいいという宮谷氏の熱い思いに負けたのである。時々手に負えないほど熱くなる時が彼にはある。

さて、実際やるとなると何しろ初めての試みなので、準備だけでも右往左往する。映像関係は石川聰代表をはじめとする映像会社 GROW の方たち（宮崎さん、上野さん、岩崎さん）に高画質に画像転送するためのシステムと仮スタジオを設営してもらい、カメラアングルや取り回しを検討した。皆さん非常にまじめな方たちで、一緒に仕事をするので俄

然やる気になってきた。

また、司会の山下病院の山崎さんと私のおっさん二人でやり取りするのも今一つツマラナイので、当院のアイドル鳥本温子技師に出場をお願いし、私のフォローをしてもらうことになった。驚いたことに彼女はやる気満々だ。

何度か協議してシナリオを作ったが、リハーサルでも頭が真っ白になり、言うことがいちいち違うので何か手立てはないかと悩んだところ、フリップを作り説明することを考え出した。考え始めると色々とアイデアは浮かぶのだが、なかなか準備する時間が取れず、すべてにおいて準備不足の状態のまま、本番へ突入した。

序盤は座長の山崎さんのうんちくのある講義で始まり、ライブは鳥本技師の滑舌のいい解説で盛り上がったようだ（後で聞いた）。私は都度思いついたことを話していたが、会場の様子がよくわからないので、退屈なんじゃないかと心配しながら、とりとめのない話をしていた。時間はあっという間に流れ、言わなきゃいけないことの半分も伝えられず終了した。唯一、最後に会場から質問を頂いてほっとした。会場の皆さん、お昼の貴重なひと時をお付き合いいただきありがとうございます。

当院には北海道消化器科病院の高林さんが仕事をサボって撮影現場に応援に来てくれた。北海道支社の織田さん。被検者になって頂いた東芝太郎（仮名）君。手伝ってくれた当院スタッフ、皆の力でひとつの山を超えることができた。終わった後は意外にも “もっとうまくやれたはず” “下行結腸の拡張不足ももっと膨らませて撮れたはず” などと もう一度チャレンジできないかなと思うに至った。こんな風に、いつも強引に高い壁を越えさせてくれるT芝メディカルの宮谷氏の企画力に改めて感服した。

そして当院のCT室にもう一人の男が待機していた。その男の名は七戸金吾。東芝のランチョンセミナーが終るや否や、私を熊本まで連れて行く。翌日の熊本でのハンズオンセミナーのためだ。電車の中でサンドイッチをつまみながら思った「この人たち、どこまで俺を働かせるんだ・・・」。車窓には碧い日本海が広がっていた。

完



ライブ直前の風景

上段：検査室での最終確認、右側に筆者、左側にT芝の宮谷氏（どこか楽しげ）

下段：操作室での撮影準備と影像機材チェック（緊張感漂うスタッフ達）